

第 7 回 いたばし魅力ある学校づくり審議会 小委員会

日時 令和 5 年 5 月 23 日 (火) 15:00~17:00

場所 区役所南館 4 階 災害対策本部室

1 施設内容・施設更新

【小委員会意見のまとめ】

小委員会では、前回審議会の議論を整理するとともに、審議会において議論すべき視点とそれに対する考え方について議論を行った。

(1) オープンスペースの有効活用

個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実に向けて、学びの場は教室だけに限られないため、オープンスペースを有効に活用することは重要な視点である。

学習場所として利用することに固執するのではなく、子どもたちのために色々な使い方が許容できる空間として捉えることで、教員の心理的なハードルを下げることができ、創意工夫や教育活動と連携した有効な活用に繋げることができる。

(2) 学校施設における地域コミュニティや防災拠点としての機能

学校施設には、学び舎としての本来機能に加えて、地域活動拠点や防災拠点としての機能も求められている。

地域の人と触れ合う機会が多いことは、子どもたちの成長にとって良いことである。

一方で、セキュリティ面については、地域によって状況が異なるため、学校と地域が連携を取りながら、地域の実情に合わせた運用を検討する必要がある。

また、学校の負担が過大にならないよう、地域開放にあたっては、管理・運営を学校支援地域本部等が担うなどの検討も必要である。

災害が起きた際は防災拠点になることも踏まえて、日ごろから学校と地域が連携して、防災訓練や情報共有などを行うことが重要である。

大規模災害時は、長期避難になることも想定されるため、学校運営との両立を考えたゾーニングの視点も必要である。

(3) 施設更新

更新需要を踏まえた整備を進めるにあたっては、将来的な人口推計や地域との関係、予算といった点を踏まえながら、教育分野だけでなく、区全体で総合的に判断する必要がある。

校庭などの屋外空間を確保するためには高層化改築は必要な視点である。高層化改築では、移動に要する時間が増える可能性による学校運営への影響が心配されるが、途中階に屋外空間を設けることで学習活動の時間が確保できる等、先行事例を参考に検討を進める必要がある。

既存の公共施設を上手く活用することで、集約化・複合化に加えて、地域コミュニティの拠点などの様々な課題にアプローチできる。

中学校における 35 人学級の導入などの将来的な教育環境の変化を見据えて、普通教室増加への対応ができるような柔軟な空間を意識することが必要である。

●主な意見等

オープンスペースの有効活用

- ① 授業形態の多様化や総合的な学習の時間をはじめとする学年単位での活動などにより、教室以外の場所で教育活動を行う現状を鑑みると、とても重要な場所である。
- ② オープンスペースは以前から全国的に設置されていたもののあまり活用されていないイメージがあったが、教育環境の変化によって、少しずつ教員の理解が進んでいると感じる。
- ③ 教員が抱える不安や負担感が有効活用の阻害要因となることが多いが、まずは気楽に使ってみることで教員の心理的ハードルが下がり、環境が整っていく事例もある。
- ④ 場所の広さだけでなく、活用しやすい設え（例：窓がなく掲示物が設置できる、壁面がホワイトボードになっているなど）にすることで、学校側は使いやすいと感じる。
- ⑤ 設置にあたっては、教育活動と関連するような設置を意識して検討していくことが必要である。

地域コミュニティの核としての機能

- ⑥ 地域との共有にあたっては、設計及び運営それぞれの段階でセキュリティ面を考えなくてはならないと思う。
- ⑦ 設計の際は、数段階のセキュリティラインを設けるが、子どもたちが普段から使用する普通教室やオープンスペースを入口から遠くに配置することが多く、特別教室や図書室、メディアセンターなどは地域と共有することが多いので、入口付近に配置することが多い。
- ⑧ 運営上のセキュリティは、地域ごとに学校との関係によって様々であるため、連携を図っていくことが大事である。

防災拠点としての機能

- ⑨ 防災拠点としての機能を果たすためには、日ごろから学校と地域が連携を取り、訓練や情報共有を行うことが重要である。
- ⑩ 地域の方は、避難場所以外にも救護物品の保管場所や避難場所までの動線にも関心が高いと感じる。
- ⑪ 教員や地域の方だけではなく、子どもたちも学校の防災機能の内容を知っておくことで、スムーズな避難所運営を行うことができると考える。
- ⑫ 大規模災害時は、長期避難も想定されるため、避難者がいる中でも学校運営が再開できるゾーニングの視点も必要である。

施設更新

- ⑬ 整備を進めるにあたっては、人口推計や予算、地域との関係を踏まえたうえで、区全体で考えていく必要がある。
- ⑭ 高層化改築では、不安や懸念として安全面や外に出にくくなるといった子どもたちへの影響が挙げられるが、子どもたちの遊びのスペースを確保できるプラス面もあることを認識する必要がある。
- ⑮ 例えば、卒業生が高齢者になった時に、自分たちが学んだ学校で世代間交流ができるように施設を集約化・複合化する発想も面白いのではないかと考える。
- ⑯ 既存の公共施設を活用することで、集約化・複合化のみならず、地域コミュニティや部活動の地域移行といった様々な課題にアプローチできると考える。